



でああなたの手元に届くwebマガジン

おぼこ稲作情報



2026年4月 No. 7 1

JA秋田おぼこ

暑い春 想定以上に早く芽が動くかも

気温に合わせた温度管理を

浸種終了の目安

浸種は10〜15度の水温で6〜8日間、もみ殻が透けて胚乳が白く見えるようになったら浸種終了の目安となります。

10度以下の低水温での浸種は種籾の休眠が深まる場合があります。14度で8日間以上浸種すると浸種期間中に発芽開始する場合があるので注意が必要です。



催芽のポイント

発芽を揃えるために30〜32度で行います。

催芽中、循環式催芽機は水を切らさないように注意をします。何回転か行う場合はその都度、機械の洗浄と水交換を行い、病害発生の危険を避けます。

育苗器等で行う場合は、催芽前に36〜40度のお湯で湯通しを行い、籾袋内部まで均一な温度になるようにすると芽が揃いやすいです。また、催芽中も1日に数回、天地返しや袋内部と外側の種子を混ぜて均一にするなどのひと手間が必要です。発芽速度は、品種、採種年により異なるので、発芽の程度を十分に観察し、催芽を終了します。

乾田化作業急げ！

耕起作業までに、田面停滞水の排水を進めましょう。田面がぬかるんでいる方はサブソイラ等で水の縦浸透改善を図ります。田植え後の異常還元を軽減させるためにも、いくらでも乾かしておきましょう。乾田化することでお宝(地力)の発生も期待できます。

一度芽が欠損すると再度出てくるまで時間がかかり、苗の生育ムラにつながります。

ちよびっと芽が顔を出す程度でOKです。

こんな時、どうする？	無加温育苗	加温育苗
浸種中 芽が動き出した！	催芽は30℃、6時間程度で籾の様子を見る。	そのまま乾かし播種をする。(育苗加温時間を半日程度延長する)。
催芽中 芽が伸びだした！	ただちに、水温10℃以下の水で「芽止め」を実施。種籾温度が低下したら、風通しの良いところで陰干しか、清潔なシートに薄く広げ、時々かき混ぜながら乾燥を促す。	
催芽中 芽を伸ばしすぎた！	芽が欠損することを見越して1割程度厚播きする。新たに浸種することも検討する。JAへご相談を。	